

本庄市

行政と生活支援コーディネーターが一枚岩となって進める地域づくり

取り組みの概要

- 市とSCが一枚岩となり、第1層協議体の意識合わせを行った。
- 取り組み方針が共有できているため、第2層協議体もスムーズに立ち上がった。
- 各地区ごとに移動販売やサロン付き添いボランティアなど具体的な活動創出に向けた、さらなる話し合いが進められている。

本庄市
 ●人口 78,707人
 ●高齢化率 27.1%
 (H30.1月時点)
 ●日常生活圏域 4圏域
 ●SC配置 第1層=社協
 第2層=包括

本庄市の取り組み参考ポイント



- ①生活支援体制整備事業に迷いはつきもの。市担当者、第1層SC、第2層SCで、その都度相談できるチームづくりをすることで、市担当者やSC自身の孤立を防いでいる。
- ②「委託したからSCに任せる」「委託元だから全部行政が決めてほしい」ではなく、お互いが主体性を持ち、得意分野を活かした役割分担を行うことが大切。 マニュアルp13

担当者のひとこと

本庄市介護保険課 菊池 大さん 人事異動などにより人が変わったら連携がとれなくなったとにならないように、属人的なものではなく、情報共有が当たり前に行える体制を維持していくことが課題です。

本庄市社協 佐京 直美さん(第1層SC) 何かあればすぐに連絡を取り合うことで、相談しやすい関係づくりにつながりました。いざというときに助けあえるような連携体制が大切です。



【協議体メンバーからの意見】

第1層協議体の席上で協議体メンバーから、「そもそも協議体って何?」「また何かやらされるのか」など厳しい意見が!そこにきちんと答えることができませんでした。



市とSCが一枚岩にならないと
 きちんと説明できない…
 市とSCが同じ言葉で語れるよう
 にならないと!

市とSCによる「チームづくり」



協議体メンバーに、市担当者・第1層SCで個別訪問し、事業のことや協議体のことを説明。

協議体の前には必ず市担当者・SCで、何をどのように伝えるかなど細かい打合せを実施。



日々の業務の中で、わからないことや悩むときには、お互いにすぐに電話をするように。

市・菊池さん:現在は、4か所の第2層協議体の開催ごとに、行政・SCで集まり、振り返りをする事で、他の地区の動きも分かるようにしています。今後はそれぞれの地区の議事録も回覧する予定です。
 第2層協議体では、メンバーの「やりたい!」が出てくるようになり、サロンへの付き添いボランティアなど具体的な活動に向けた動きも始めています。具体化してくると協議体の実施回数が増えますが、できる限り時間差が出ないように皆で振り返りをしています。

協議体の当日の進め方や当日資料は皆で相談し、本番に臨みます!!



【第2層協議体の立ち上げ】

- 第2層SC候補者(包括)も勉強会に参加。行政と第1層SCで示した第2層協議体メンバーの人物像を参考にして、第2層SC候補者も一緒にメンバーになってほしい人を検討しました。
- 第2層協議体メンバー候補者への参加のお願いには、第2層SCと一緒に第1層SCが訪問しました。事業説明などでは、着任して日が浅い第2層SCを第1層SCが補足するなどフォローしました。

宮代町

町全体で今あるものを活かしながら、 自分たちのほしい暮らしをつくるまちへ

取り組みの概要

- 町とSCが所属する社協が共通のビジョンを持ち、町民の「やってみたい」という思いを広げることから始めている。
- 町とSCと一緒に地域に出ていき、町民や関係者等と顔なじみの関係づくりを進めている。

宮代町
 ●人口 34,022人
 ●高齢化率 31.2%
 (H30.1月時点)
 ●日常生活圏域 1圏域
 ●SC配置 第1層=社協



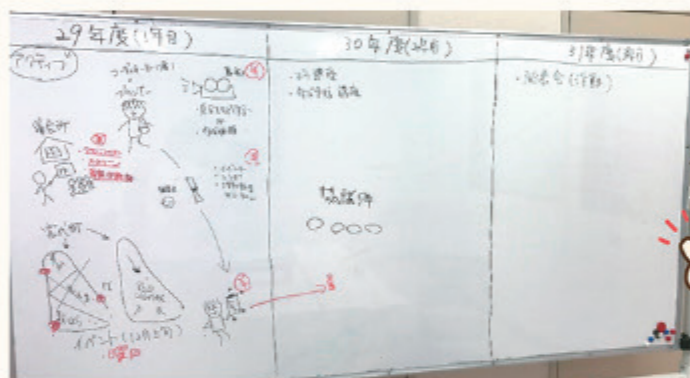
宮代町の取り組み参考ポイント

- ①目標や手段を整理することで、ビジョンを共有している。
- ②SCと行政が共感できる仲間を増やしながら取り組みを進めている。

マニュアルp12～13、p59

担当者のひとこと

宮代町健康介護課 室越 康宏さん 地域に顔を出し、色々な方々と知り合い、つながることで、我々も地域の色々なことを教えてもらうことができます。
 宮代町社協 松尾 敏明さん(第1層SC) 地域に出ていく大切さや楽しさを町の室越さんも感じてください、二人三脚で取り組んでいるのが大きいと思っています。



【ビジョンの共有】
 まずは町と社協(SC)のビジョンを共有することから始めました。
 3年後までのビジョンとして、目標・戦略・戦術を共有しました。



共感

※ワークショップでは、協議体メンバーにグループのホストになっていただきました。

【勉強会】
 NPOが主催した地区懇談会でのアンケートにより把握した地域づくりに興味がある方、サロン活動者等に「地域の縁づくりに向けた勉強会」をお知らせし、開催。協議体メンバーも参加しました。

【勉強会メンバーの気づき】
 勉強会の中で、身近な活動に興味を持ち、まずは地域活動者を増やそうという動きが生まれ、活動者を掘り起こす仕組みを作りました。その背景には、各団体が口を揃えて、担い手がない、仲間が集まらないということがありました。



サロンでの出前講座



みやしろ大学でのちよこつと出前講座

共感

【情報提供の機会】
 町とSCが、地区連絡会(自治会長の連絡会議)にて、出前講座のお知らせを行い、地域交流サロン等で出前講座を行いながら、SCと町担当者の顔を覚えてもらっています。

※介護従事者連絡会(ケアマネジャー等への働きかけ)

※ボランティア連絡会(ボランティア団体への働きかけ)



松尾第1層SC: SCは地域支え合い推進員。「困ったときはお互い様」という支え合いの精神を醸成していくことが、仕組み以上に大事なことであると感じています。



町・室越さん: 町全体でビジョンを共有し、取り組みながら、仲間を増やしていくことが最大の住民啓発につながると思っています。出前講座では、何か1つでも覚えて帰っていただき、周りの方に伝えてほしいと話しています。

協議体

【協議体での共有・働きかけ】
 生活支援サービスの提供主体で構成された協議体の中では、活動者を掘り起こす仕組みを活用し、生活支援の担い手を増やす取り組みを行っています。各提供主体では、事業説明会の実施、懇談会の開催などを行い、担い手の獲得につなげています。また、SCは生活支援に関連する活動者への働きかけを行っています。

※老人クラブ勉強会(友愛活動者へのフォローアップ)

※NPO懇談会(支え合い活動の担い手獲得に向けPR)



狭山市

住民勉強会から活動拠点を持つ 第2層協議体づくり

取り組みの概要

- 10か所の社協支部の圏域を第2層圏域とし、圏域ごとに住民勉強会を重ね、第2層協議体のイメージを明文化した。
- イメージを具体化するために、空き家や神社の社務所を活用した拠点を中心として協議体の取り組みを進めている。

狭山市
 ●人口 152,487人
 ●高齢化率 29.9%
 (H30.1月時点)
 ●日常生活圏域 6圏域
 ●SC配置 第1層=社協
 第2層=社協

狭山市の取り組み参考ポイント

- ①第2層協議体の推進における勉強会などで、第1層協議体メンバーがファシリテーターとして関わるなどSCをフォローしている。
- ②地域に働きかけるときに、まずSCたちから地域に出て行き、関係性づくりを重視した。
 マニュアルp14、p31~32、p35~36



担当者のひとこと

狭山市社協 天谷 都紀子さん(第1層SC)

第2層協議体立ち上げまでの道のりは正直長かったですが、勉強会を丁寧にやったからこそ、実際に活動が始まってから住民同士で悩むことがあっても、勉強会で話し合った方針に立ち返ることができています。SCの想いや都合で主導することなく、住民自身に答えを出してもらうために、SCは住民の土台となり、支えになり、共に仕組みを作り上げます。



【第1層協議体にて第2層協議体立ち上げについて協議
決定した方針】

- 生活支援体制整備事業をきっかけに「福祉でまちづくり」をしよう。
- 住民が考え・住民が決定し・住民が動く、真の住民主体で!



第1層SCと社協の覚悟
 本気になって汗をかかないと!!
 全面的サポートの姿勢で!!



天谷第1層SC：社協内で地域福祉担当者会議を行うことで、SCと社協支部担当の情報共有を密にし、一緒に地域に出て行くようにしました。結果、住民とSC、社協支部担当と一緒にいる時間が増え、信頼関係もできました。

【社協支部長会議で第2層協議体立ち上げ方針の説明】

- 参加者からの意見
- 市がやればいいのか。
 - これ以上何をやらせるのか。

天谷第1層SC：一緒に動くようになったSCと社協支部担当に加えて、管理職も勉強会に参加。組織全体でこの事業に取り組むようになりました。



【勉強会】

各支部の役員会にて説明。やってみようかと言ってくれた支部から順次勉強会をスタート。

勉強会実施パターン

- 支部福祉委員で実施
- 支部福祉委員+住民やボランティア、専門職で実施
- 支部では行わず、やりたい人が集まって実施

第2層協議体が活動しやすくなるよう、助成金を各地区に配分しています。

【皆が考える第2層協議体イメージの明文化】

- ◆集える場がある
- ◆いつでも誰かがいる
- ◆おしゃべりができる
- ◆誰が来てもOK
- ◆気軽に相談ができる
- ◆相談が次につながる
- ◆情報が集まる
- ◆自分たちの役割がみつかる

拠点の必要性

各地区で具体化

(入曽地区の例)



「いりそ支え合い たっち」を立ち上げ、神社社務所を拠点にサロン活動などを開始

(富士見地区の例)



活動を知ってもらおう、仲間を増やそうと広報誌を作成し、メンバー皆でローラーポスティング

【話し合いを重ねる】

ほとんどの地区が1年以上、話し合いを重ねました。途中で離れていった人もいれば新たに加入した人もいました。

(入曽地区の例)



まずは支部福祉委員を中心に勉強会をしよう!

(富士見地区の例)



支部としてではなく、やりたい人でやろう!

富士見地区はゼロからの人集め。地域にポスターを貼ったり、関わりのあったボランティアの方など当たり次第に声かけをしました。結果、自治会役員や民生委員も一住民として、参加してもらうことができました。

毛呂山町

出張型協議体で 話しやすい雰囲気づくり

取り組みの概要

- 毛呂山町では出張型協議体を取り入れ、メンバーが話しやすい雰囲気づくりをしている。
 - 協議体メンバー間の連携促進を図るために、近況報告を毎回行うことで、顔の見える関係での話し合いにつなげている。
- ※出張型協議体=サロンを見たことがない協議体メンバーもいるので、現場で開催することで全員で視覚的に情報を共有できたり、活動者の声を直接聞くことができます。

毛呂山町
 ● 人口 34,207人
 ● 高齢化率 32.0%
 (H30.1月時点)
 ● 日常生活圏域 1圏域
 ● SC配置 第1層=社協



毛呂山町の取り組み参考ポイント

- ① 協議体のイメージや役割をしっかりと伝えることで、協議体メンバーが、SCの良き相談役としての役割を理解できている。
- ② 開催場所を変えたり、サロン見学に行くことで、協議体を話しやすい雰囲気になできている。

マニュアルp17~18

担当者のひとこと

毛呂山町高齢者支援課 荻野 高志さん 協議体はルールを敷かず、できるだけ堅苦しくならないように心掛けています。井戸端会議の延長だからこそ、話しやすい雰囲気になるのかなと思います。SCには自由に動いてもらいながらも、行政として事前相談でしっかりとサポートしています。

毛呂山町社協 宮永 沙樹依さん(第1層SC) 協議体がなかったら、サロン立ち上げやふれあいマップづくりも大変だったと思います。私にとって協議体が安心できる材料になっています。

Before



第1回協議体の様子

初回の協議体で協議体会長の「ざっくばらんに話し合しましょう」の一言がきっかけで、机の配置を口の字から近づけた配置に。
 その後、出張型協議体や近況報告を行うことに・・・

町・荻野さん：毎回の協議体開催前には、町とSCで事前に方向性や落としどころなどイメージを共有しています。「町にとって何が必要か、何が求められているか」常に意識しています。



After

【協議体を情報発信の場に】
 協議体で話題にのぼった事を、協議体メンバーから各団体へ、さらに地域住民へ情報発信しています。各組織の活発化や組織間の連携につながっています。



現在の協議体の様子



【地域での活躍】
 協議体メンバーが各種講座の講師やファシリテーターとして活躍しています。



【現場の視察】
 毎年、協議体メンバーで他市町の活動の視察に行っています。メンバー間の関係づくりやモチベーション維持にもつながっています。



町・荻野さん：話しやすい協議体づくりを進めることで、メンバーの意識が変わり、他人事でない協議体づくりにつながりました。今では、話題を作らなくても、メンバーから話題がよく出てきています。

宮永第1層SC：協議体メンバーには日頃から個別相談をしています。また、毎回の資料は事前に訪問・手渡し、コミュニケーションを多くとるようにしているので、参加前に共通理解をしてもらっています。



長 瀬 町

メンバーのやってみたいを大切に、 ワイワイガヤガヤで進める協議体

取り組みの概要

- 協議体が形式的で住民同士の活発な話し合いができなかったため、勉強会参加者から熱意のある方を募り、メンバーの再編をした。
- ワイワイガヤガヤの協議体となるよう、メンバーの自主性を尊重し、SCや行政は押し付けにならないような関わり方に努めている。

長瀬町
 ● 人口 7,279人
 ● 高齢化率 35.8%
 (H30.1月時点)
 ● 日常生活圏域 1圏域
 ● SC配置 第1層=社協



長瀬町の取り組み参考ポイント

- ① 協議体メンバーは必要に応じて変更するなど、柔軟な体制が良い。
 - ② 個々のできることや特性を尊重するため、プロジェクトチームや分科会を設けることも有効。
- マニュアルp14~21

担当者のひとこと

長瀬町健康福祉課 内田 千栄子さん 町として、①住民の主体性を大切にする、②いつでも支援する(お金を除く人的支援や相談)、③取り組み成果を我が事として一緒に喜ぶ、④成果を他地区に知らせていくことを心掛けてきました。さぁみんなでやろうという住民の皆さんに感謝の気持ちが絶えません。

長瀬町社協 野口 恵子さん(第1層SC) 協議体や地域の活動をもっと見せる化し、地域の声も拾っていきたいと思っています。SCとして地域の中に星の数ほどあるお宝を協議体メンバーとつなぎ、面にしていくことが地域づくりにつながっていくのかなと思います。同じ町内の仲間としてつながれるよう、場づくりをしていきます。



協議体再編成に向けた勉強会の様子



野口第1層SC：協議体が、まちづくりについて対等な立場で話し合えるチームになるように、立場や役職にとらわれず、勉強会アンケートで意欲のある人を優先的に募ることにしました。



野口第1層SC：新たな居場所づくりの際には、SCがチラシ作りや準備運営に関する相談に乗りました。自立した主体的な活動になるように、連携を図りつつ後方支援に徹しました。



【協議体の再編成】

地縁関係者の声を反映することのできる協議体となっておらず、再編成を検討。そこで、まずは大づかみ方式による勉強会を開催、地域づくりや協議体の目的を勉強しました。町の現状だけでなく、地域に残っているつながりが大切なことも伝えました。



ささえ愛ながとろのメンバー



【メンバーの選出】

勉強会参加者の中でも意欲的な方20人を協議体メンバーとして、新たな船出!! 愛着をもってもらうため愛称を「ささえ愛ながとろ」に決定。ささえ愛ながとろメンバーが運営を行い、フォーラムを開催、活動PR発表も行いました。

【ワイワイガヤガヤの結果】

協議体メンバーを中心に、町内の福祉意識啓発に取り組んでいくことになりました。熱心なメンバーが住む岩田地区ではさらに話し合いが行われ、新たな居場所が立ち上がりました。分科会となる「居場所について話し合うチーム」と「あったか声かけを地域に広げていくことを話し合うチーム」でより活発な話し合いを進めていくことになりました。



【プロジェクトチームの発足】

メンバーのモチベーションが上がったことでプロジェクトチームが結成されました。メンバーの得意分野を活かし、お揃いのTシャツや資源マップづくりに取り組んでいくことに。

町・内田さん：メンバーの意思を尊重すること、目的がブレないように声掛けすることを心掛けました。プロジェクトチームを編成したことで、少人数の話し合いができ、今後の取り組みのヒントも出てきました。



内田さん、野口さんの似顔絵は、協議体メンバーが作成してくれたものを掲載しました。



町・内田さん：フォーラム開催に、ささえ愛ながとろのメンバー、それぞれが役割をもって取り組み、共感体験が生み出されたことで、仲間意識が生まれ、その後の協議体での話しやすい関係ができました。



野口第1層SC：協議体でわいわい話し合えるように、椅子だけの車座にしてみたり、中盤でティータイムを入れるなど、堅苦しくない雰囲気づくりをしました。

志木市

多世代で考える地域支え合い 「ぼく・わたしの未来デザインコンテスト」

取り組みの概要

- 協議体コアメンバー発案のもと、次世代にも関心をもってもらい、支え合いの大切さを知ってもらうために、住民向けフォーラムで「子ども達のデザインコンテスト」を開催し、多世代に向けた啓発に取り組んだ。
- ※協議体コアメンバー＝志木市では第1層全体会（協議体）の中で、さらなる話し合いに参加してくれる希望者を募り、コアメンバー会を作っています。

志木市
 ●人口 76,056人
 ●高齢化率 23.8%
 (H30.1月時点)
 ●日常生活圏域 5圏域
 ●SC配置 第1層＝社協
 第2層＝包括



志木市の取り組み参考ポイント

- ①協議体メンバーと目的や目標、取り組みプロセスを共有しながら取り組みを進めることで、自分事と感じてくれる仲間が増えることにつながっている。
 - ②将来の人材不足を見据え、次世代とともに考える地域支え合いのまちづくりを目指している。
- マニュアルp12、p24、p28下段

担当者のひとこと

志木市社協 川嶋 祥子さん（第1層SC）次世代の担い手づくりは簡単なものではありませんが、まずは知ってもらう・考えてもらうきっかけを作っていくことが大切です。今後もしっかり取り組みを進めていきたいです。

志木市長寿応援課 高山 佳明さん 初め頃は「第1層協議体としての方針を出してくれ」という声もありましたが、自分たちができることはなにか、自分たちで答えを出してもらう心がけました。地域には閉じこもりになっている人、活動に参加していない人、地域に関心がない人が多くいます。多世代を巻き込む仕組みを開拓し、情報を発信し続けていくことが大切だと思っています。



川嶋第1層SC：話し合いでは、目的や進め方をアナウンスすることに徹します。また、これまでの話し合いや良い意見をSCが整理し、掘り下げた話し合いができるようにテーマを投げかけるなどファシリテートも行います。

【多世代へのアプローチ】

第1層協議体コアメンバー会で、「前回のフォーラムは、参加者の層に偏りがあったよね」と意見があがり、閉じこもりがちな高齢者や次世代にもアプローチしていこうと話がまとまりました。「小学生から、将来どのような志木市になるといいか」をテーマに絵や作文を募集し表彰しようというアイデアもメンバーの発案！！



市・高山さん：市や協議体の取り組みを知ってもらうため、デザインコンテストは市のホームページからダウンロードできるように工夫しました。また、応募作品の裏に親御さんからのコメントを入れてもらうようにしました。



川嶋第1層SC：イベントチラシ作りはコアメンバーで得意な方が作成しました。



デザインコンテストと合わせてフォーラムもPR

【みんなでPR】

市：学校教育課を通して各学校へ配布、市役所内でパネル展示
 市とSC：学童保育クラブへ配布や駅前商業施設でパネル展示
 協議体コアメンバー：ネットワークを活かし、口コミで広める



【子ども達の思いを大人が体现!!】
 主催者賞「だいじょうぶですか？ だれかたすけてー」と声をかけあえる地域にするために、今後の市内協議体で話し合っていきます。

取り組みプロセスをコアメンバーで共有できたことで絆が深まり、自分事と感じてくれるように、各所属団体等で自発的に新たな啓発を進めてくれています。

受賞者の子ども達、市長と協議体コアメンバー



【フォーラム実施】

フォーラムの中で未来デザインコンテスト表彰が行われ、子ども達の思いを実現するため、親や参加者の大人世代がこれからの地域づくりを考えるきっかけになりました。



市・高山さん：子ども達の応募作品はどれも心を掴むもので、表彰された子ども達や親御さんからの発信でも、地域支え合いを広げていけたらと思います。市と社協の広報誌でも、子ども達の思いを発信する機会を作りました。

川嶋第1層SC：フォーラム当日もコアメンバーを中心に運営しました。市とSCは、趣旨説明やタイムスケジュール案づくりなど裏方でサポートしました。



羽生市

寸劇で伝えるこれからの地域づくり

取り組みの概要

- 「はにゅう 地域ふれあい だいじゅかい (第1層協議体)」で、市全体の助け合い・支え合いについての課題を話し合う中で、自分たちで啓発活動に取り組んでいくことになった。
- 第1層協議体メンバーで脚本や配役を決め、寸劇を様々な機会で行い、住民に向けた啓発に取り組んでいる。

羽生市
 ●人口 55,243人
 ●高齢化率 28.0%
 (H30.1月時点)
 ●日常生活圏域 9圏域
 ●SC配置 第1層=福祉
 第2層=社協



羽生市の取り組み参考ポイント

- ① これからの地域づくりを住民に知ってもらうために、協議体メンバーが自分たちができることの第一歩として、寸劇づくりに主体的に取り組んでいる。
- ② 寸劇という啓発方法から、各圏域への住民啓発につなげることを目指している。

マニュアルp32

担当者のひとこと

羽生市高齢介護課 松本 美雪さん(第1層SC)・羽生市社協 増田 陽一さん 寸劇で笑ってくれることは嬉しいですが、イベント的に終わってしまわないようにしたいと思います。今後は伝えたいことを絞って啓発していきます。こうした啓発活動は、住民から「毎年来ているね」と言われるくらい、繰り返し伝えていかないといけないと思っています。みんなが素人なりに頑張りました。寸劇を通して、メンバーの個性が光りました。



市・松本第1層SC：第1層SCとして、第1層協議体の役割が明確にできず、悩んでいました。そこで、別の視点として啓発活動に広げられたのは良かったです。

【見せる化のヒント】

第1層協議体での話し合いが行き詰まっていた際に、さわやか福祉財団の岡野氏から寸劇をやってみてはとアドバイスがあり、「羽生らしさを出し、協議体メンバーでできることをしてみよう!!」と意見がまとまりました。

元教員の協議体メンバーがシナリオを作るなどメンバー各々が準備や用意をしました。

【寸劇づくり】

- 1~2か月の準備期間で、協議体メンバーで台本や役決めをしたのち、練習に励みました(協議体開催日とは別日)。
- 回を重ねるごとに、楽しみながらアレンジし、メンバー間の関係性も良くなっていきました。



【今後に向けて】

協議体やSCの取り組みを知ってもらうには、地域住民向けに様々な仕掛けが必要です。寸劇での経験を活かし、今後も違った方法での見せる化を検討しています。

行政の高齢者大学の担当課には、第1層SCが行政というメリットを生かし、働きかけました。

市・松本第1層SC：地域に熱をもった人は多くいると思います。それを信じて、情報発信していくことで、その情報を地域に還元していってくれるはずですよ。



市社協・増田さん：寸劇を見た住民から支え合いについての問い合わせもありました。地道ですが、少しずつ波及していることを実感します。



【いざ実演】

公民館での高齢者大学やさわやか福祉財団全国フォーラム等で寸劇を熱演しました。まずは面白いと感じてもらい、地域住民の心を掴むことを意識しています。

富士見市

「支え(られ)る」垣根を超える 地域活動発表の場

取り組みの概要

- 地域での支え合いを促す取り組みとして「富士見市の支え(られ)るコレクション」を開催。
- 地域で「支える」活動者だけでなく、「支えられる」利用者にも発表いただくことで、「支えられ上手」へ、また、「担い手」としての気づきにもつながっている。

富士見市
 ● 人口 110,886人
 ● 高齢化率 24.2%
 (H30.1月時点)
 ● 日常生活圏域 5圏域
 ● SC配置 第1層兼第2層＝社協

【企画・準備】

【講演&活動発表】

- 活動者① 地域で支え合い！
水谷美奈さんらづくり協議会
水谷美奈さんらづくり協議会
代表 川上伸史氏
利用委員 尾形浩吉氏
- 活動者② 地域の絆！
瀬戸東町会内 鶴文の自立自治会
自治会長 山本敬司氏
民生委員 高橋美奈子氏
- 活動者③ Let's介護予防！
いきいきパワーアップクラブ
代表 林フミエ氏
会長 徳藤ムツ子氏
- 活動者④ 男性の料理！
ぱれっと料理の会
副代表 鈴木文男氏

**富士見市の
支え(られ)るコレクション**
 ～あなたも「何かしたい」がきっかけから～
日時：平成30年3月23日(土)10時～12時
 場所：富士見市社会福祉協議会
 生活支援コーディネーター
 鈴木明史

大会議室では様々な体験コーナーがあります！

- 12時00分
開会 講演
「支え合いと生活する実践」
富士見市社会福祉協議会
生活支援コーディネーター
鈴木明史
- 12時30分
活動者による報告 写真おにじ紙
- 4時00分
閉会 あいさつ
富士見市社会福祉協議会
会長 清水 英

鈴山SC

【SCが企画したきっかけ】

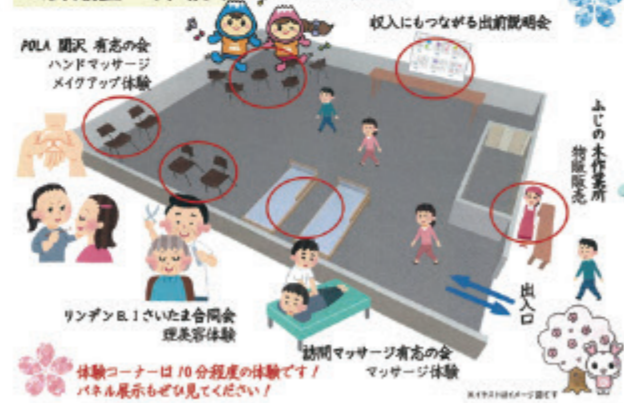
○支える側と支えられる側という立場をなくしたいと思いました。誰でも役割をもって出来ることをやろうという意識啓発や、地域活動に参加する興味をもつきっかけになればと企画しました。

○春先の外出意欲を高めようというねらいもあり、3月に開催しました。



【体験コーナー】

大会議室 会場図



市や社協の広報誌やホームページで周知したほか、12月～2月の3ヶ月間にわたり、SC1人で40か所近くの高齢者サロンに直接出向き、参加者を募りました。

発表4団体、体験コーナー5団体とそれぞれ打合せを行ったため、プログラム確定に時間がかかってしまい、早期に周知した方の参加が少なくなっていました。一度に集まってもらい、団体と打合せする機会があるとよかったです。

富士見市の取り組み参考ポイント



- ①活動者と利用者の両方が発表することでお互いのモチベーションアップにもつながる。
 - ②地域資源の体験コーナーをつくることで、参加者の継続性や新たな一歩を踏み出しやすくしている。
- マニュアルp39～40、p47

担当者のひとこと

富士見市社協 鈴山 将史さん(第1層SC) 各活動の利用者(支えられる側)の発表により、参加者自身が将来をイメージし、自分のこととして捉えていただくきっかけになりました。コレクションに参加いただいたことで、SCが推進する地域づくりについて理解が深まり、既存の住民組織から新たな活動創出の相談を受け支援しています。



【コレクション当日】



【活動者発表&利用者発表】
 利用者の方の「病気や障害を抱えても自分の住み慣れたまちで暮らしていきたい」という声に、会場からもたくさんの共感がありました。



活動者発表&利用者発表



ふじみパワーアップ体操体験



【体験者の声】
 サロンに参加できるように足を丈夫にしたい。



訪問理美容体験



ハンドマッサージ体験

鈴山SC：外出しづらくなってしまった人でも、イキイキと暮らすヒントになればと思いました。訪問理美容でキレイになったら、外出意欲も上がるかも？